

法学部創立百周年回顧座談会について

東京専門学校法律学科は、明治一五年一〇月に開校して以来、早稲田大学法学部と名称は変ったが昭和五七年一〇月で創立百周年をむかえるに至った。この間、早稲田の「法科」はその存立が累卵の危機にせまることが兩三度あると先輩たちは伝えていた。しかし時には、創立者大隈重信の決断により、また時には、寺尾元彦・遊佐慶夫など、先輩たちの苦闘により、「法科」の危機を克服することが出来た。いま、この過ぎ去った百年を回顧するとき、これから早稲田の「法科」の危機を救い、今日の早稲田大学大学院法学研究科そして法学部にまで築きあげて下さった諸先輩に対し改めて深甚なる敬意を表せざるを得ない。

早稲田大学法学会は、母校創立百周年を記念し、種々の行事を行い、機関誌「早稲田法学」も第五八巻一・二・三号をあげて記念論文、さらには記念講演会における講演内容などを収録することにした。いま、その第三巻を刊行するにあたり、「早稲田法学」編集委員会の主催による座談会「早稲田法学の百年を語る」をまず収録した。

創立百周年を記念して、大学では「早稲田大学百年史」通史四巻のほか各学部史など二巻、あわせて六巻を刊行する予定をたて、法学部に対し大学当局より「法学部史」編集の依頼があった。この依頼に対し法学部においては、「法学部百年史編纂委員会」を昭和四九年四月の教授会で設けた。「法学部百年史編纂委員会」は、まず「法学部史」編纂の基礎となる資料の収集などを行うこととし、建学以来のカリキュラムなど収集した資料は「早稲田法学」第五二

巻以降に「早稲田大学法学部百年史資料」として出来るかぎり毎巻収録することにした、このことは現在でも引続き行われている。

資料収集の一部として外岡茂十郎先生および野村平爾先生の回顧談をきく座談会、さらには日本の近代史を強烈にいろどった太平洋戦争下「法学部」や「専門部法律科」に席をおいた当時の教員や学生であった諸教授の座談会が「法学部百年史編纂委員会」の主催により行われた。当初の計画では、大浜信泉先生、中村宗雄先生、さらには先輩校友の方々のお話も拝聴したかったのであるが、種々の都合でこれらの先生がたからお話をうけたまわることが出来なくなりました。現在でも真に残念に思っている次第である。

本巻には以上の「法学部百年史編纂委員会」主催による三つの座談会の内容も収めた。それゆえ本巻には、以上四つの「座談会」の記事が収められているが、出席者の重複などにより、それぞれの内容に重複した部分がでてきている。重複部分の整理は内容の性質上極めて困難なので、そのまま収録することにした。また紙数の関係上、やむを得ず割愛せざるを得ない部分が出たが、これらは座談会出席者の責任などにおいて割愛させて頂いた。この点諸賢の諒承を得たいと思っている。

終にのぞみ、今日の「早稲田法律学」をきずきあげて下さり、すでに物故せられた諸先生方をはじめ諸先輩の御冥福を祈る次第である。

昭和五八年七月二〇日

早稲田大学法学会会長 杉 山 晴 康